

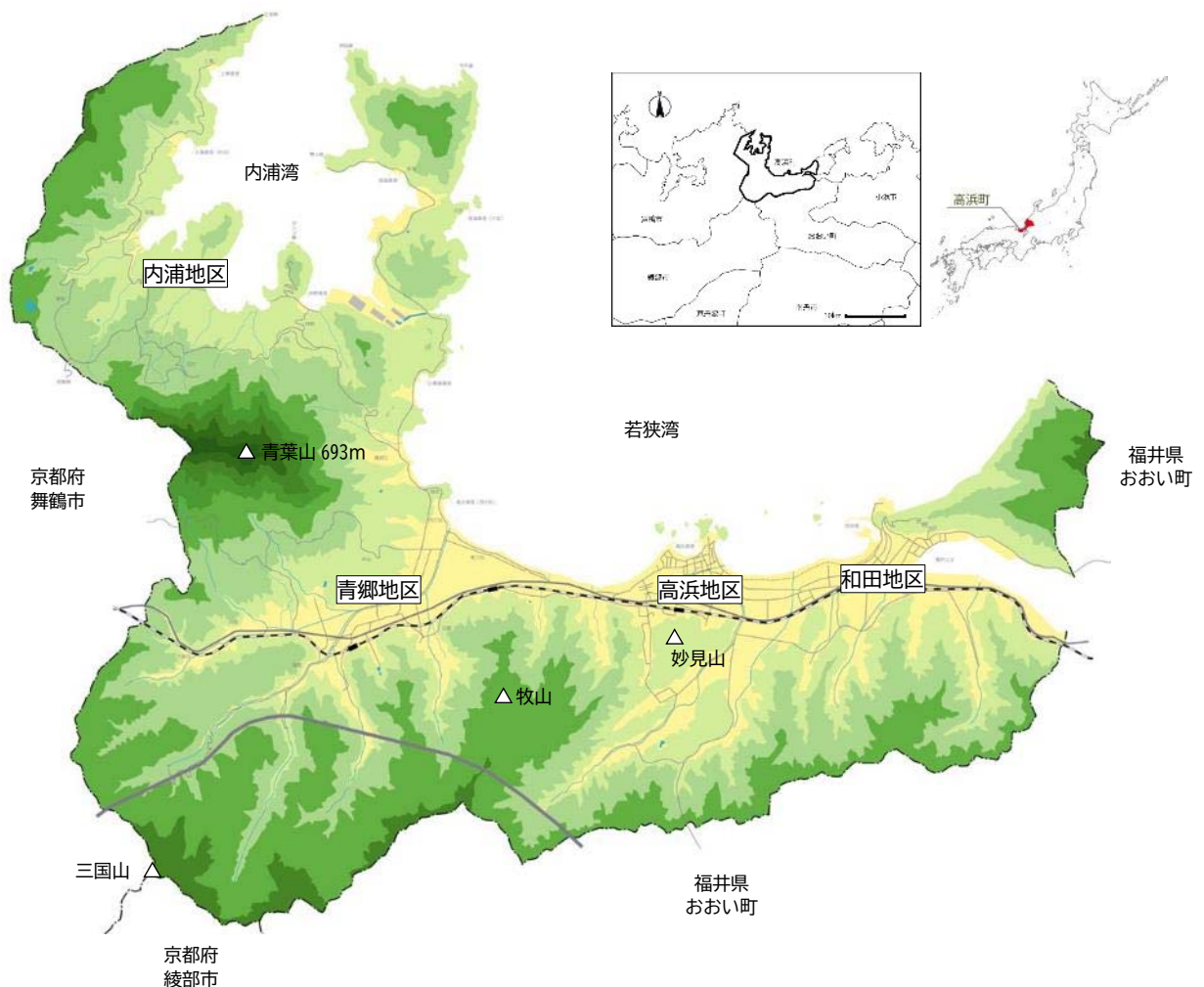
第2章 高浜町の緑の現況と課題

2-1 町の概要

(1) 位置

高浜町は福井県の最西端に位置し、南東はおおい町、西は京都府と接し、南西の飯盛山脈を背にして北は日本海「若狭湾国定公園」に面し、行政区域は7,240haとなっている。町内は、4つの地区（東から和田地区、高浜地区、青郷地区、内浦地区）にわかれており、和田地区から高浜地区を経て青郷地区に至る8kmは白い砂浜の海岸と松林など変化に富み、夏は関西・中京方面よりの海水浴客でにぎわいをみせている。町の西部にある青葉山は標高693mで、その雄姿は若狭富士と呼ばれている。町の70%は山林で、日本海に注ぐ河川の流域に耕地約520haが帯状をなし、点在している。

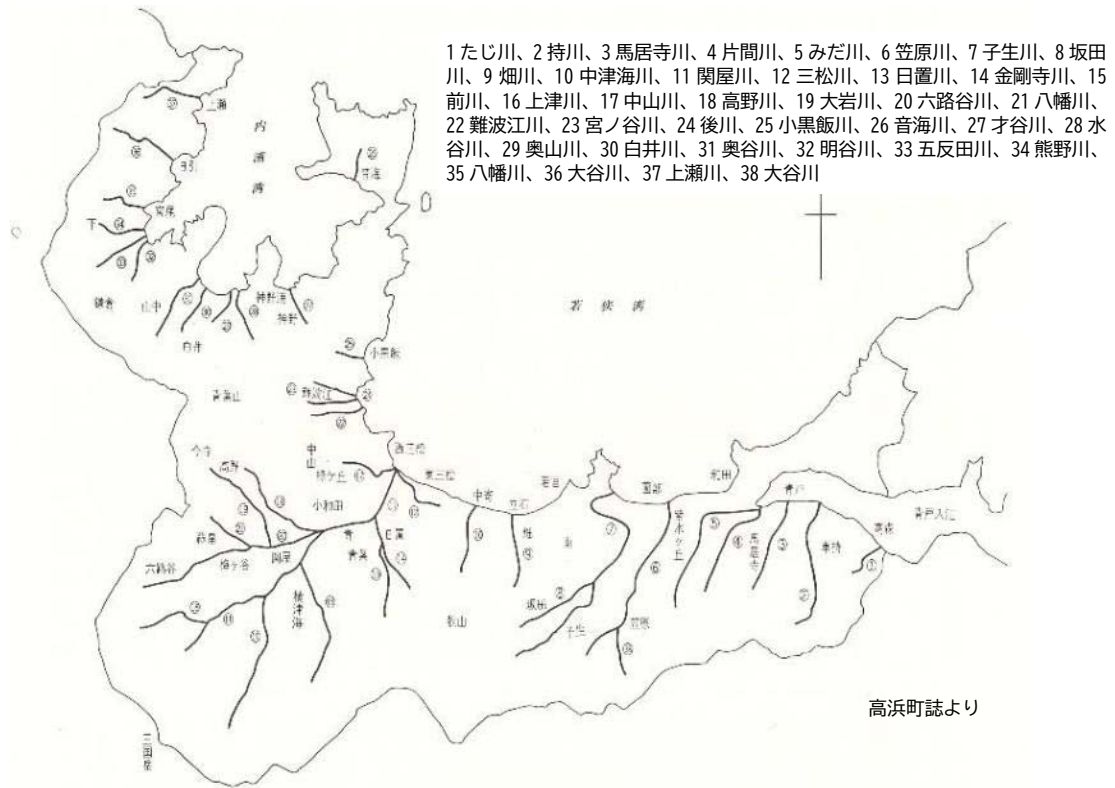
平成28年4月には、アジアで初めてビーチ・マリーナの国際環境認証ブルーフラッグを取得。また、日本の棚田百選、日本の夕陽百選、日本の快水浴場百選と3つの百選に選定される風光明媚な約1万人の海辺の町である。



(2) 自然（水系、地形・地質、植生）

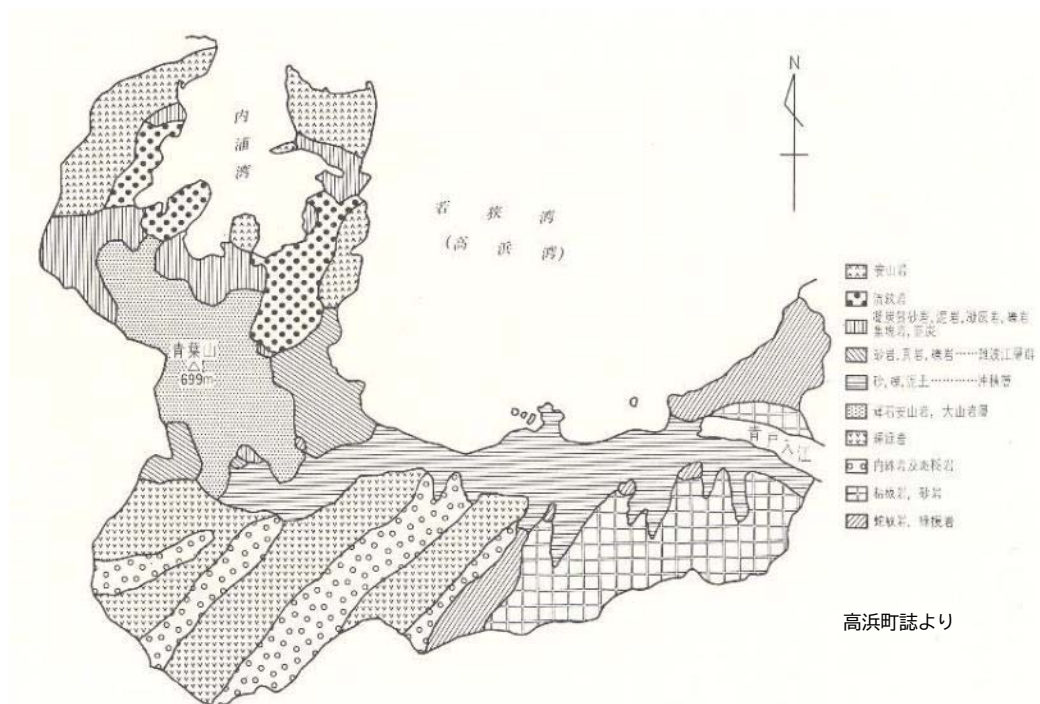
(水系)

高浜町や大小 38 の水系にわかれ、主要水系としては、⑤笠原川水系、⑦子生川水系、⑪関屋川水系の 3 つが大きい。



(地形・地質)

高浜町の地質は、2 億 8 千万年に近い太古から幾度となく沈降して海となり、また隆起して陸地となり、火山活動にも見舞われ変動の激しい地層として、概ね 10 の地質を見ることができる。



(植生)

高浜町の植生分布は、若狭湾の対馬暖流により、気候は冬期の降雪期を除き概ね温暖となっている。また、地質、地形、気象学的にも山陰型を示し、暖地性常緑樹が多く茂り、南部暖地系統（北限植物）、寒地系統（南限植物）の植物群落の自生分布もみられ、例えば、北海道に多く分布するハマナスが砂浜に自生し、九州以南の限られた島にしか自生しないナタオレノキが鷹島に群生している。さらに、青葉山には、ブナの原生林が残り、オオキンレイカなど青葉山のみに自生する高山植物があるなど、貴重な品種の宝庫として知られている。



青葉山に自生するオオキンレイカ

(3) 歴史

高浜町の歴史は、立石遺跡と神野浦遺跡にみられるように縄文時代にまで遡り確認することができる。弥生時代の初期には、若狭全域に稲作が広まっていたと考えられ、その中でも特質すべきは、小和田区での石剣・石戈の出土であり、弥生時代より若狭でも中心的な役割を担っていたと推察される。古墳時代の王墓は町内からは見つかっておらず小浜東部に分布しており、高浜町はそれらの勢力下だったと思われ、古墳時代後期には、小和田双子山古墳など、青古墳群と思われる多くの古墳が見つまっている。奈良・平安時代には、13箇所製の塩遺跡にみられるように塩づくりが盛んであり、平城宮跡から多くの木簡が出土していることから、御食国の中心地として高浜町から、多くの海産物を都へ送っていたことが確認されている。

中世になると妙見山の碎導山城や城山の高浜城などが築城され、現在確認されている山城だけでも10箇所にのぼり、この当時、海と平地を見渡せる山麓に、山城や寺社などの拠点が形成されていたことが想像できる。近世（江戸時代）になると小浜藩がおかれ、高浜町は、丹後との国境の要所としての役割（蒜畑女留番所）や鷹狩りなどの遊山の場（和田茶屋）として利用されていた。

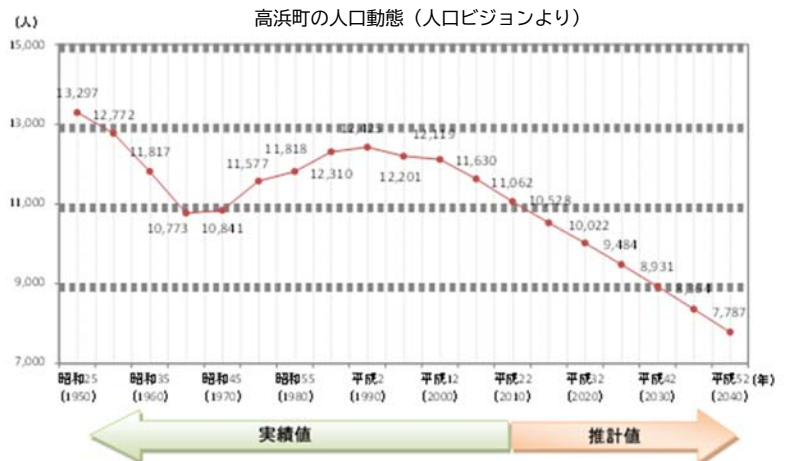
若狭の国からは、幕末から明治にかけて優れた禅僧が多く出られており、とりわけ大拙承演禅師、儀山善来禅師、越溪守謙禅師、釈宗演老師は円覚寺と深い縁があり、禅をZENとして世界へ広めた釈宗演老師は、高浜町若宮の生まれである。また、大正のはじめから海水浴場として発展し、昭和47年には日本一の民宿群を形成していた。

(4) 社会条件（人口、道路網、土地利用現況、景観、防災）

(人口)

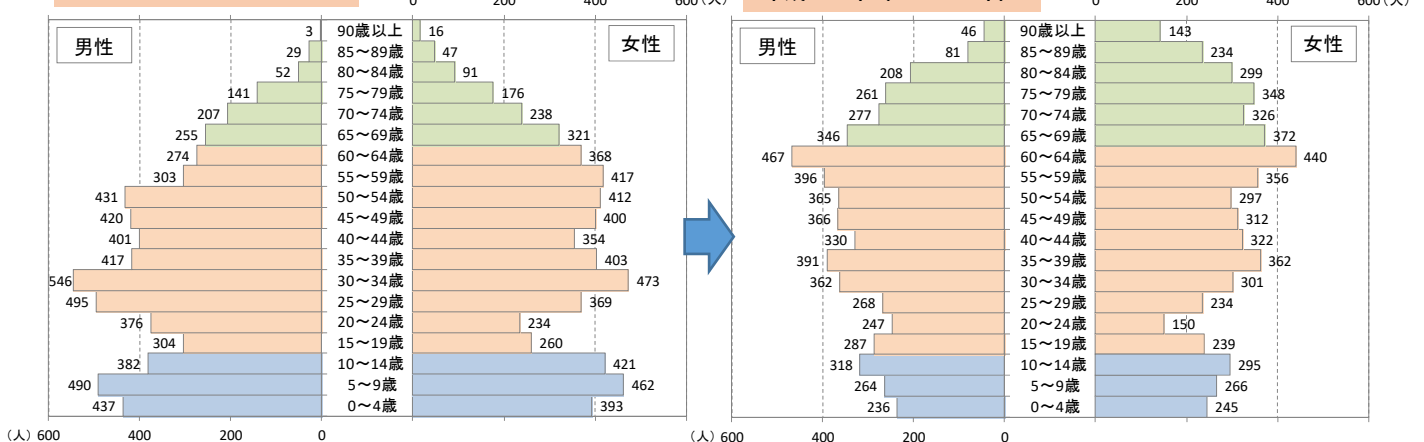
高浜町は、1990 年（平成 2 年）をピークに人口減少となり、高浜町の人口ピラミッドをみると、人口が右肩上がりに増加していた昭和 55 年と人口が減少期の平成 22 年では、団塊世代の高齢化により 60 歳以上人口が増加、生産年齢人口および子どもの数が、およそ 2／3 ほどに減少している。令和 22 年（2040 年）の推計値では、さらに少子化、高齢化が進み、高浜町では 60 歳以上の高齢者の総数はさほど増加していないが、85 歳以上の後期高齢者が 2 から 3 倍に増加している。また、生産年齢人口は 3 割ほど減少し、子どもの数は、さらに現在の半分ほどになると予想されている。

高浜町の人口推移と将来推計
人口減少が進み、
令和22年には7,787人に



昭和55年（1980年）

平成22年（2010年）



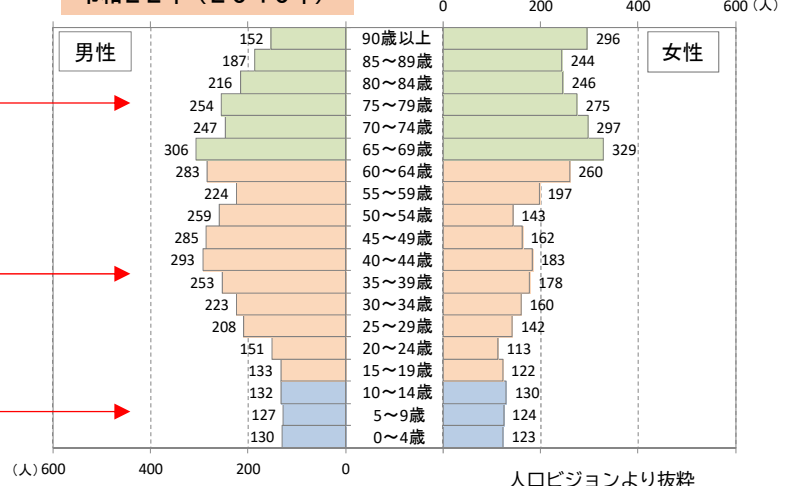
*平成 22 年（2010 年）までは国勢調査、令和 22 年（2040 年）は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」（平成 25（2013）年 3 月推計）をもとに作成（年齢不詳を除く）。

85 歳以上の高齢者は
およそ 2～3 倍に増加
(総数はあまり変わらない)

生産年齢人口は
およそ 2～4 割減少

子どもの数は
およそ半分以下

令和22年（2040年）



地区別の人口動態

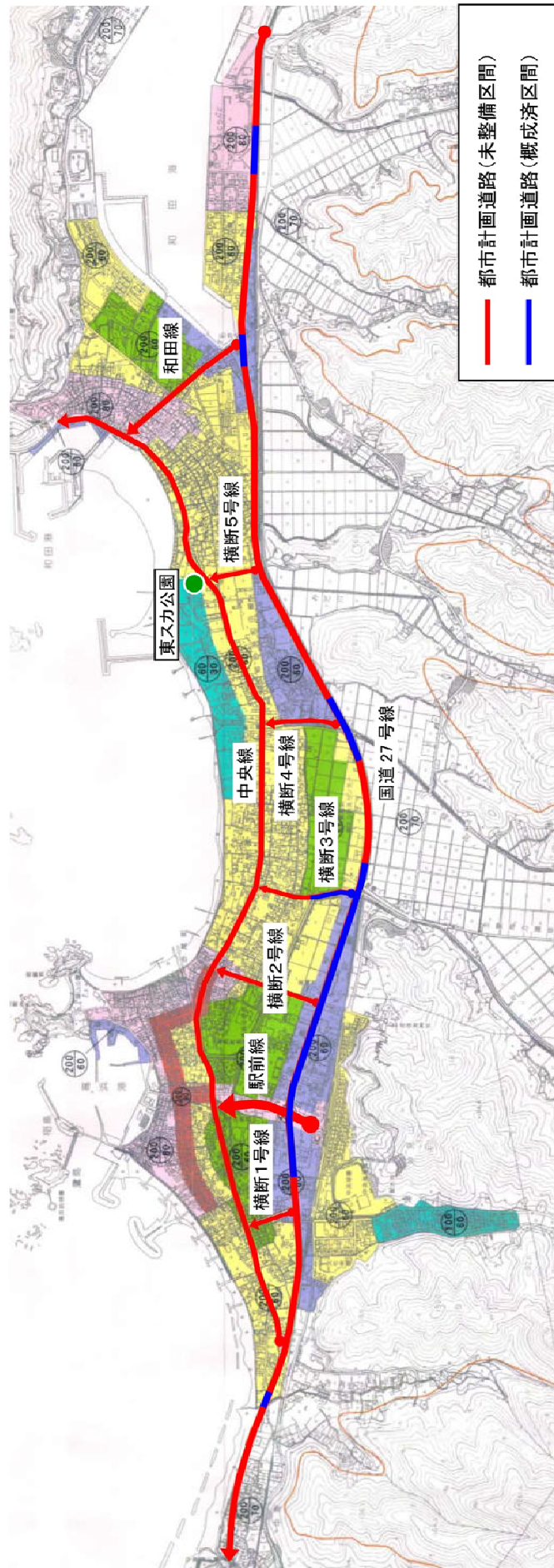
人口ビジョンより抜粋

		人口			指数
		1985年 (昭和60年)	2000年 (平成12年)	2015年 (平成27年)	「1985年人口=100」 とした場合の2015年人口 ※25%以上の増減に着色
高浜地区	若宮	414	378	317	77
	塩土	579	414	294	51
	大西	544	533	413	76
	中町	141	125	95	67
	今在家	145	128	99	68
	本町	272	211	146	54
	事代	514	414	281	55
	赤尾町	369	254	221	60
	中央	101	257	137	136
	横町	362	400	343	95
	園部	516	467	410	79
	岩神	91	105	90	99
	紫水ヶ丘	98	111	110	112
	子生	127	105	69	54
	坂田	—	11	8	—
	坂田G.T	0	0	107	—
	笠原	—	4	4	—
	中寄	128	122	102	80
	畑	82	71	124	151
	立石	200	159	225	113
	宇治	429	489	442	103
	南	280	248	231	83
	湯谷	291	533	561	193
計		5,683	5,539	4,829	85
和田地区	和田一区	416	392	402	97
	和田二区	237	192	255	108
	和田三区	316	376	315	100
	和田四区	217	278	226	104
	和田五区	387	344	278	72
	和田六区	241	210	164	68
	安土	834	738	255	31
	水明	0	97	69	—
	青戸	137	284	382	279
	馬居寺	42	45	35	83
	車持	208	201	148	71
	けいあいの里	0	0	6	—
計		3,035	3,157	2,535	84
青郷地区	東三松	494	576	567	115
	西三松	337	371	361	107
	緑ヶ丘	50	182	141	282
	日置	151	174	165	109
	青葉	189	100	53	28
	青	151	192	236	156
	横津海	113	99	88	78
	関屋	220	199	208	95
	出合	281	321	283	101
	六路谷	104	75	64	62
	蒜鼻	35	40	39	111
	高野	158	140	119	75
	今寺	46	33	32	70
	小和田	213	208	228	107
	中山	70	72	88	126
計		2,612	2,782	2,672	102
内浦地区	難波江	85	86	57	67
	小黒飯	62	58	49	79
	神野	88	70	58	66
	神野浦	45	43	21	47
	菅海	225	180	140	62
	上瀬	97	79	64	66
	日引	102	89	83	81
	宮尾	51	30	24	47
	下	39	40	28	72
	鎌倉	110	103	78	71
	山中	206	166	117	57
計		1,110	944	719	65
合計		12,440	12,422	10,755	86

(道路網)

- 都市計画道路は、高度経済成長期の昭和44年に、自動車交通の増加に対応するため、9路線、12,894mが計画決定されましたが、国道27号線など一部区間で概成済となっている以外は、いずれも未整備となっています。
- そのため、都市計画マスタープランで定めた交通体系整備の方針に基づき、都市計画道路網の変更・廃止を順次進めています。
- また、都市計画公園は1箇所のみ（街区公園、供用済）ですが、これ以外に小規模な広場が散在しています。

都市計画 道路	国道27号線 駅前線（変更予定） 和田線（平成29年3月廃止） 中央線（廃止予定）	横断1号線（令和2年3月廃止） 横断2号線 横断3号線（廃止予定） 横断4号線（令和2年3月廃止） 横断5号線（平成29年3月変更）	都市計画 公園	東スカカ公園（街区公園、供用済）
------------	--	--	------------	------------------



立地適正化計画より抜粋

表 都市計画道路の指定状況

立地適正化計画より抜粋

番号	路線番号	路線名	計画幅員	計画延長	計画車線数	備考
①	3.4.1	国道27号	18.5m	6,130m	2	
②	3.4.2	中央線	16.0m	4,260m	2	廃止予定
③	3.3.3	駅前線	22.0m	420m	4	変更予定
④	3.4.4	和田線	16.0m	560m	2	H29.3廃止
⑤	3.5.5	横断1号線	12.0m	200m	2	R2.3廃止
⑥	3.5.6	横断2号線	12.0m	434m	2	
⑦	3.5.7	横断3号線	12.0m	380m	2	廃止予定
⑧	3.5.8	横断4号線	12.0m	310m	2	R2.3廃止
⑨	3.5.9	横断5号線	12.0m	200m	2	H29.3変更

高浜町の主要道路は、東西を横断する国道27号で、国道と並行するように海側に旧丹後街道があり、旧街道と国道27号の間をつなぐ道路が設置されている。内浦側へは、青郷地区の国道27号日置交差点より北側へ県道が分岐し、内浦地区の各集落をつないでいる他、内浦の山中区と鎌倉区の間より京都府舞鶴市へつながる県道がある。舞鶴若狭自動車道は、青郷地区の南側を通り、おい町に「おい高浜IC」が設置されており、高浜地区まで車で約10分の距離となっている。

(土地利用現況)

行政区域面積7,240haに対し都市計画区域は1,568ha(21.7%)、その内用途地域は241ha(15.4%)となっている。69.2%が都市計画区域内に居住し、62.9%が用途地域内に居住している。近年の林野面積に大きな変化はなく、行政区域面積の73.7%を占めている。

表 用途地域の指定状況

立地適正化計画より抜粋

都市計画区域 1,568ha						
用途地域 241ha	第一種低層 住居専用地域	第一種中高層 住居専用地域	第一種 住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域
	約16ha (6.6%)	約39ha (16.2%)	約86ha (35.7%)	約39ha (16.2%)	約10ha (4.1%)	約51ha (21.2%)

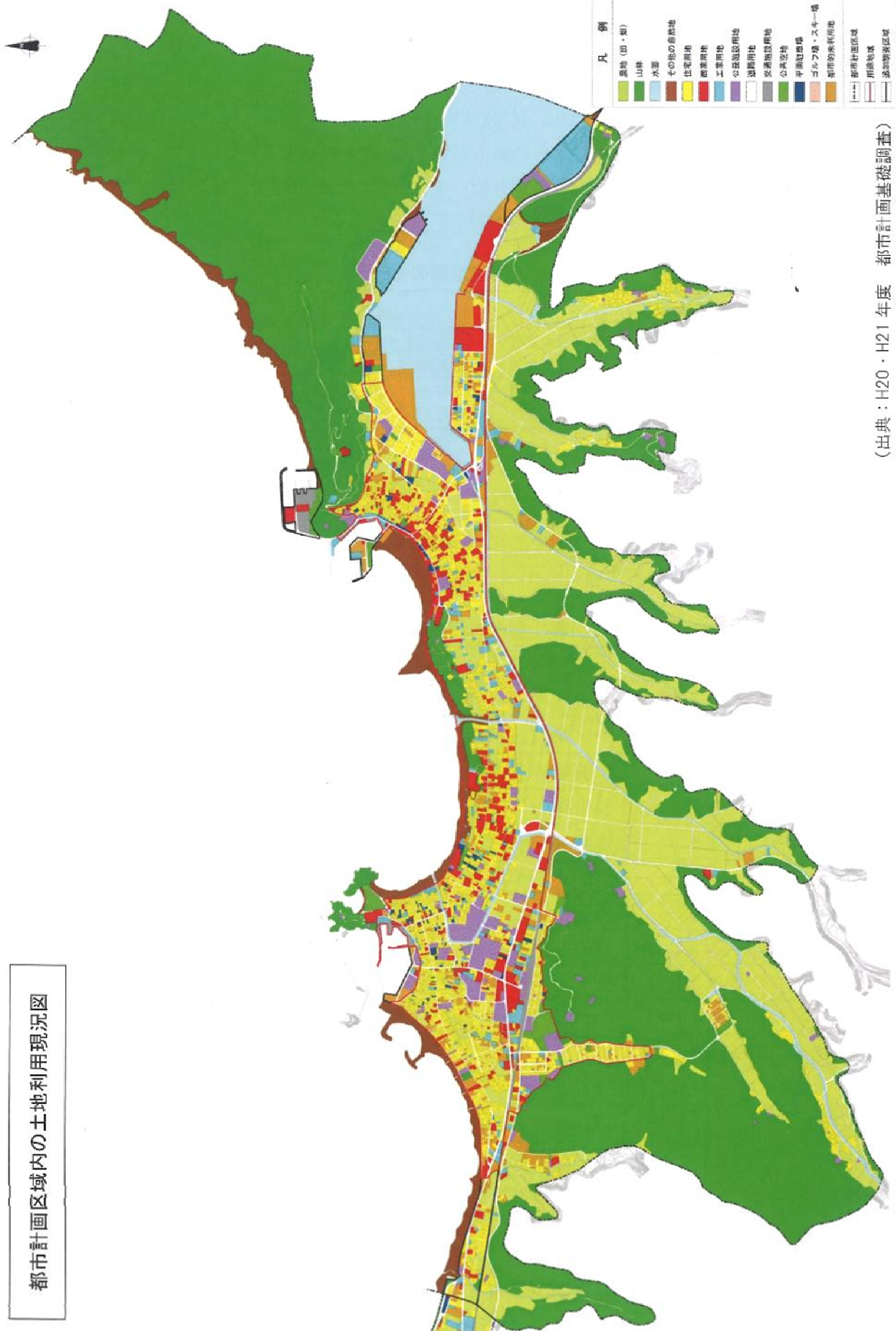
(H25年3月末現在)

表 林野面積の推移(ha)

福井県林業統計より抜粋

項 目		H15	H20	H21	H27	H28	H29	H30
人工林	針葉樹	2,329	2,339	2,341	2,337	2,337	2,337	2,337
	広葉樹	2	2	2	2	2	2	2
天然林	針葉樹	374	350	349	349	348	348	348
	広葉樹	2,167	2,197	2,196	2,192	2,191	2,191	2,191
竹林		255	251	251	250	249	249	249
無立木地	伐採跡地	29	9	9	9	9	9	9
	未立木地	191	193	193	192	191	191	191
所有形態	国営	5	7	7	9	9	9	9
	公営	114	118	119	472	428	428	428
	私営	5,228	5,216	5,217	4,857	4,901	4,901	4,901
総 計		5,347	5,341	5,342	5,339	5,338	5,338	5,338

都市計画区域内の土地利用現況図



（出典：H20・H21年度 都市計画基礎調査）

都市計画マスタープランより抜粋

土地利用の変遷

- ・1963 年（S38）：旧丹後街道が国道。役場や小学校も木造（小規模）



- ・1969 年（S44）：国道 27 号が整備され、宇治区、湯谷の開発がスタート



- ・1985 年（S60）：宇治区、湯谷の開発も骨格ができ、現在の市街地に近い土地利用



(景観)

福井県高浜町は、海水浴の町として知られ、8キロ続く白砂青松の砂浜は、日本の快水浴場 100 選にも認定されている。昭和 47 年の社団法人日本観光協会による統計調査では、民宿収容力で日本一（収容力 30,000 人、軒数 620 軒）、宿泊施設数では大阪市に次いで全国 6 位というほど、海水浴を中心としたリゾート地として発展してきた。ビーチ・マリーナの国際環境認証ブルーフラッグを取得した若狭和田ビーチのある和田地区は、現在も高浜町最大の海水浴場を有し、民宿群としての風情を色濃く引き継いでいる。日本でも類をみない海水浴文化の色濃い町であり、民宿群が今なお宿として、また生活場所（住居）として継承されていることは、高浜町の財産であるといえる。



高浜町全景
(下の大きな浜が若狭和田ビーチ)

海は、
いくつもの表情で。

海が、笑っているような気がする日がある。
海が、眠っているような気がする日がある。
自然のままのこの町では、
自然の表情がよくわかります。
さあ、若狭地方特有の風景が待っていてきた
まっ白な砂が迎える、8つの表情の浜へ。



古くから夏場観光として知られ、高浜の海は多くの浜が多くの人に愛されてきた。夏の高浜



海岸に花、笑顔が咲く。ビーチの海が笑顔で迎える。海遊びにぴったりです。

大浜の海は、大人気の海。海遊びにぴったりです。

浜の海は、大人気の海。海遊びにぴったりです。

海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

青葉山と
ともに生きる。

海が笑っている。海が眠っている。自然のままのこの町では、自然の表情がよくわかります。さあ、若狭地方特有の風景が待っていてきたまっ白な砂が迎える、8つの表情の浜へ。



青葉山と海



青葉山と海

海で、遊びになろう。

はたまた海を渡る船が走り入る。海は、笑顔の海。海遊びにぴったりです。

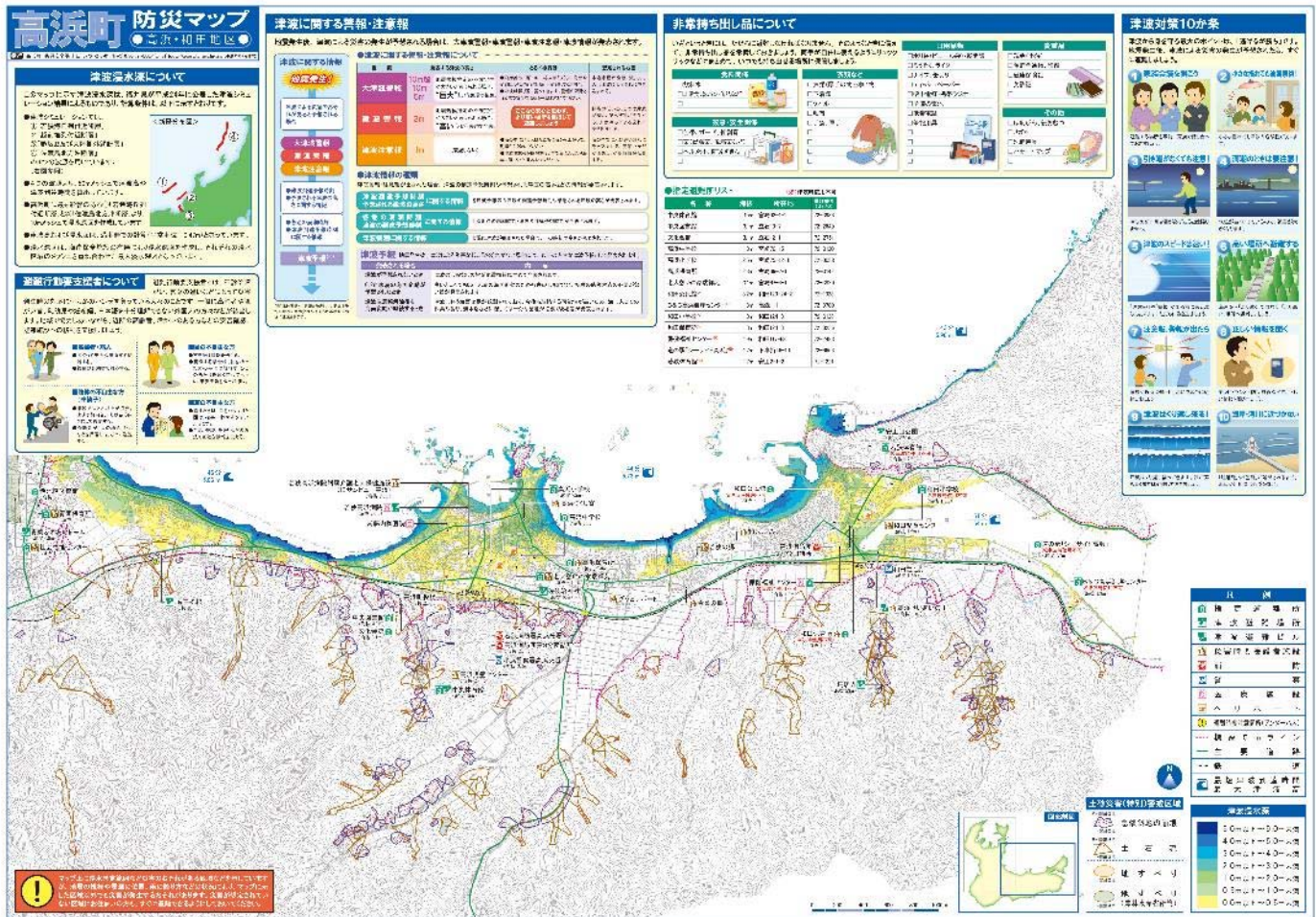


青葉山と海



青葉山と海

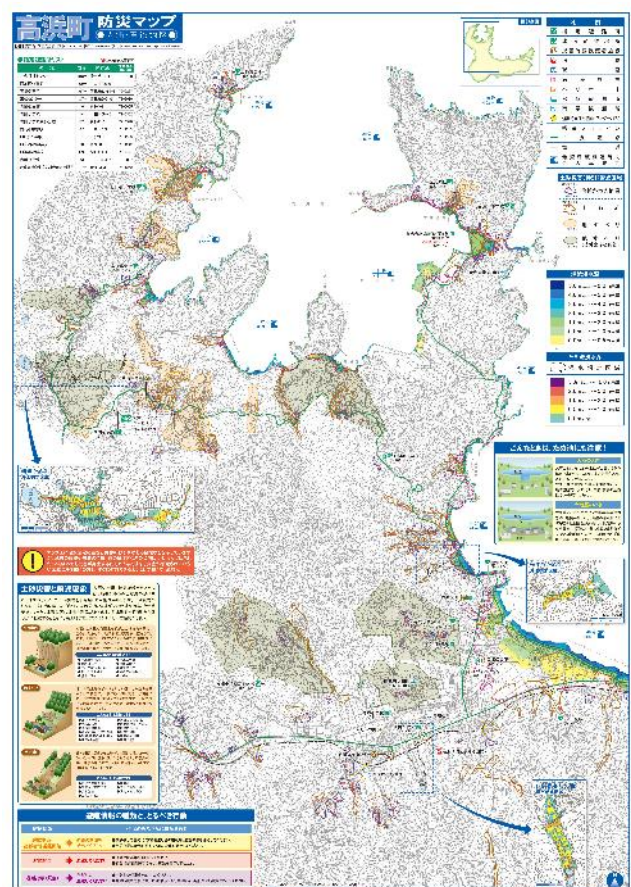
(防災)



高浜町防災マップ

和田・高浜・青郷地区の海際は、津波により浸水の恐れのあるエリアが多い。谷に点在する区が多くが土石流または急傾斜地の警戒区域となっている。

内浦・青郷地区の津波被害は少ないエリア
では、地すべり警戒区域が点在している。



2-2 緑の現況

(1) 施設緑地の現況（都市公園等、公共施設の緑化、レクリエーション施設、民間緑地）

町内で都市公園として指定されているのは、和田地区にある「東スカ公園 2,215 m²」のみに留まり、一人当たりの都市公園面積は 0.21 m²と全国平均 10.4 m²に対して大きく下回っている。また、地区等広場（公園）は、19 箇所（高浜 11、和田 5、青郷 3）あり、一人当たり 3.28 m²となっている。居住誘導区域に絞ると都市公園がない状況である。

学校・公民館等の公共施設内の緑地面積は、一人当たり 9.00 m²となっている。中央球場はグラウンドを除くので低いが、その他体育施設等は 3～5 割、児童センターは 3～7 割、小中学校は 1～3 割、公民館は 1～4 割の緑化率となっている。

一方、観光施設緑地（城山公園、安土山、脇坂公園、ハーバルビレッジ、五色山公園等）は、一人当たり 46.30 m²と多い。これに、菌部から和田にかけてある松の防風林や公園的に利用される砂浜（海水浴場）を加えると、一人当たりの緑地面積は 99.49 m²となり、とても多くの緑と接していることがわかる。

基準日：平成 30 年 3 月 31 日

種別		居住誘導区域：4,373 人			用途地域：6,587 人			都市計画区域：7,243 人			高浜町全域：10,471 人		
		箇所	面積（m ² ）		箇所	面積（m ² ）		箇所	面積（m ² ）		箇所	面積（m ² ）	
			計	1人当たり		計	1人当たり		計	1人当たり		計	1人当たり
住民利用系	都市公園	0	0	0	1	2,215	0.34	1	2,215	0.31	1	2,215	0.21
	地区等広場	3	3,730	0.85	11	15,014	2.28	16	22,465	3.10	19	34,384	3.28
	公共施設緑地	7	7,480	1.71	8	41,798	6.35	10	60,742	8.39	19	94,226	9.00
観光利用系	観光施設緑地	2	6,334	1.45	3	10,799	1.64	7	83,012	11.46	13	484,855	46.30
	防風林（緩衝緑地）	1	3,062	0.70	3	106,062	16.10	3	106,062	14.64	3	106,062	10.13
	砂浜（緩衝緑地）	0	0	0	0	0	0	2	225,000	31.06	3	320,000	30.56
都市公園等合計		13	20,606	4.71	26	175,868	26.70	39	499,496	68.96	58	1,041,742	99.49

※面積については、google マップより求積

1人当たり都市公園面積 (国・県：平成 29 年 3 月末)	高浜町	0.21 m ²	福井県	16.8 m ²	全国	10.4 m ²
-----------------------------------	-----	---------------------	-----	---------------------	----	---------------------

高浜町の公共施設の緑化状況

施設名	面積(ha)	緑化面積(m ²)	緑化率	施設名	面積(ha)	緑化面積(m ²)	緑化率
中央球場・中央体育館	1.62	666	4.1%	高浜小学校	1.04	1,326	12.7%
青葉グラウンド	0.78	3,825	48.9%	和田小学校	0.77	2,033	26.2%
和田球場(B&G)	0.72	2,383	33.1%	青郷小学校	0.66	1,395	21.1%
高浜児童センター	0.08	259	33.2%	高野分校	0.14	479	34.0%
和田児童センター	0.11	740	68.5%	内浦小中学校	0.62	906	14.6%
青郷児童センター	0.06	300	52.0%	高浜公民館	0.36	1,023	28.3%
三松センター	0.45	1,638	36.2%	和田公民館	0.30	271	10.1%
高浜中学校	0.89	966	10.9%	青郷公民館	0.31	678	21.9%
※体育施設・小中学校のグラウンドは敷地面積より除く				内浦公民館・公園	0.79	2,976	37.6%



東スカ公園



湯谷公園



南団地公園



城山公園



脇坂公園



池田山公園



青の松原



若狭和田ビーチ

(2) 地域制緑地の現況（都市計画区域内、自然公園等）

その他、高浜町の地域制緑地は、内浦～和田までのすべての海岸線が若狭湾国定公園（自然公園）に指定されている。また、海岸線の緑地の多くが、魚付保安林として地元漁業者に守られている。

国道 27 号の南側は、農業振興地域・農用地区域として指定され、農地としての区画整理が進み、営農組合等により農地として活用が進められている。

国指定天然記念物として、六路谷の杉森神社にあるオハツキイチョウがあるほか、福井県指定では、青葉山に自生するオオキンレイカ、高浜町指定では、寺社仏閣や集会所等の敷地内で 13 の樹木が指定され保全されている。

国指定天然記念物

名 称	所在地	管理者
杉森神社のオハツキイチョウ	六路谷	杉森神社

福井県指定天然記念物

名 称	所在地	管理者
オオキンレイカ	高浜町	高浜町

高浜町指定天然記念物

名 称	所在地	管理者
ナタオレノキ群落	高浜町	高浜町・塩土区
タモ	菌部	菌部区
ケヤキ	青	青海神社
紅梅	日置	大成寺
マキ	日置	大成寺
モミ	宮崎	佐伎治神社
カシ	宮崎	佐伎治神社
イチョウ（オス）	和田	新宮神社
ムクロジ	和田	新宮神社
イチョウ（メス）	和田	真乗寺
シイ	神野	神野区
フジ	神野	神野区
サルスバリ	菌部	正善寺

(3) 花と緑のまちづくり（花と緑のイベント）

高浜町内での花と緑のまちづくり活動は、女性等が中心となり地区や団体により取り組まれている。

- ・桜まつり 城山公園
- ・4月～5月 横津海 農苑ピクニック（芝桜イベント）
- ・はまなすいっぱい運動
- ・オオキンレイカ保存活動（青葉山麓研究所）
- ・5月 オープンガーデン Aoba （オープンガーデン）
- ・5月、9月 ガレージセール（花苗販売 やまぼうしの会）
- ・ビオトープ、水車など（ゆりの里クラブ）
- ・シルバー人材センター 花苗づくりと販売
- ・高浜町婦人会 花のまちづくり活動
- ・コスモス畑、芝桜 西三松管理組合 脇坂公園
- ・福井国体 花いっぱい運動

など



横津海 芝桜



町花はまなす



オオキンレイカ



オープンガーデン



中寄の水車



福井国体

2-3 緑に関する住民意向調査

公園に関する住民意識調査として、令和元年度に住民を対象に意識調査を実施した（総合計画町民アンケート内）。

【住民】令和元年公園についてのアンケート調査（9/5～9/20）

調査対象者数：2,500人（18歳以上を無作為抽出）

全体回答者数：1,047人（回答率41.9%）

※公園の設問の年齢別有効回答907人、地区別有効回答912人

年齢別クロス集計		普段、利用したいと思う公園					合計
		滑り台・ロープ・トンネルなど複合型遊具のある「遊び場公園」	大きな芝生広場のある「芝生公園」	遊歩道や散策路の充実した「散策公園」	大きな木や四季の草花、池などの自然環境豊かな「自然公園」	スケボーや自転車によるアクロバット等で利用できる「スポーツ公園」	
18～29歳	回答数	24	13	14	17	9	77
	割合%	31.2%	16.9%	18.2%	22.1%	11.7%	
30～39歳	回答数	50	14	19	7	3	93
	割合%	53.8%	15.1%	20.4%	7.5%	3.2%	
40～49歳	回答数	36	20	32	34	7	129
	割合%	27.9%	15.5%	24.8%	26.4%	5.4%	
50～59歳	回答数	14	11	63	44	6	138
	割合%	10.1%	8.0%	45.7%	31.9%	4.3%	
60～69歳	回答数	22	17	66	102	3	210
	割合%	10.5%	8.1%	31.4%	48.6%	1.4%	
70～79歳	回答数	6	16	76	82	1	181
	割合%	3.3%	8.8%	42.0%	45.3%	0.6%	
80歳以上	回答数	5	13	21	40	0	79
	割合%	6.3%	16.5%	26.6%	50.6%	0.0%	
合計	回答数	157	104	291	326	29	907
	割合%	17.3%	11.5%	32.1%	35.9%	3.2%	

年齢別では、18歳から49歳の子育て世代の意見として、「滑り台・ロープ・トンネルなど複合遊具のある遊び場公園」が最も多かった。高齢者になるほど、自然・散策系の公園を希望している。全体に、スポーツ系の公園ニーズが最も低い。

地区別クロス集計		普段、利用したいと思う公園					合計
		滑り台・ロープ・トンネルなど複合型遊具のある「遊び場公園」	大きな芝生広場のある「芝生公園」	遊歩道や散策路の充実した「散策公園」	大きな木や四季の草花、池などの自然環境豊かな「自然公園」	スケボーや自転車によるアクロバット等で利用できる「スポーツ公園」	
和田地区	回答数	50	31	44	64	5	194
	割合%	25.8%	16.0%	22.7%	33.0%	2.6%	
高浜地区	回答数	73	46	168	157	12	456
	割合%	16.0%	10.1%	36.8%	34.4%	2.6%	
青郷地区	回答数	32	23	67	72	9	203
	割合%	15.8%	11.3%	33.0%	35.5%	4.4%	
内浦地区	回答数	4	5	15	32	3	59
	割合%	6.8%	8.5%	25.4%	54.2%	5.1%	
合計	回答数	159	105	294	325	29	912
	割合%	17.4%	11.5%	32.2%	35.6%	3.2%	

高浜・青郷・内浦地区は、1番、2番目に多い意見として、自然・散策系公園であった。和田地区のみ2番目に多い意見として複合遊具系を希望している。回答数を見ると、高浜・和田地区共に同数程度あることから、子育て世代の意見であると分析できる。

緑に関する住民意識調査として、平成 28 年度に保育所および小学校の児童保護者を対象とした意識調査を実施した。

【保育所】平成 28 年度公園アンケート調査

調査対象者数 : 338 人 (4 つの保育所)

回答者数 : 292 人

回答率 : 86.4%

問1 保育所帰宅後の過ごし方

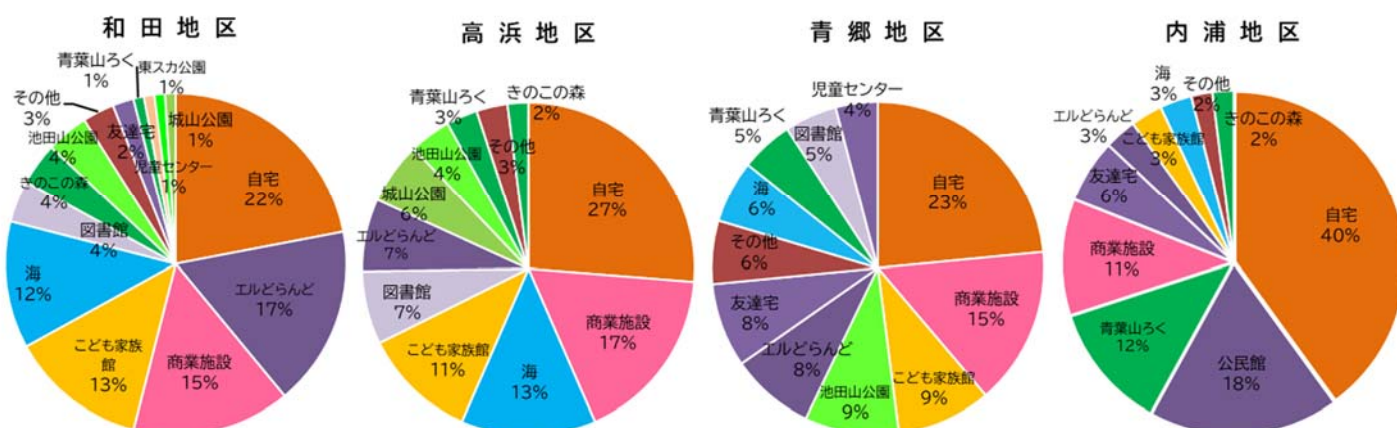
公園を良く利用する 22人(8%)

公園をたまに利用する 100人(37%)

公園をほとんど利用しない 150人(55%)

問2 休日の過ごし方

和田地区	1位 自宅(家族宅) 22%	2位 エルどらんど 17%	3位 商業施設 15%	4位 こども家族館 13%	5位 海 12%
高浜地区	1位 自宅(家族宅) 26%	2位 商業施設 17%	3位 海 13%	4位 こども家族館 11%	5位 図書館 7%
青郷地区	1位 自宅(家族宅) 23%	2位 商業施設 15%	3位 こども家族館 9%	4位 池田山公園 9%	5位 エルどらんど 8%
内浦地区	1位 自宅(家族宅) 40%	2位 内浦公民館 18%	3位 青葉山ろく公園 12%	4位 商業施設 11%	5位 友達宅 6%



問3 公園の現状について (複数回答あり)

満足である	26票
公園はあるが遊具が少ない	140票
空き地が欲しい	20票
運動遊具が欲しい	101票
公園が少ない	127票
公園は必要ない	4票

問4 希望する公園の規模について (どちらかを選択)

① 家から近い子どもだけで行ける小型公園	147票
家から遠く大人と行く大型公園	122票
② 遊具が充実している公園	225票
スポーツができる広場	43票

問5 遊具を設置してほしい公共施設

城山公園	41票	エルどらんど	8票	旧日引小	3票	青葉球場	1票
公民館	23票	図書館	7票	はまなす公園	3票	道の駅	1票
保健福祉センター	18票	中央体育館	7票	役場跡地	2票	坂田GT	1票
児童センター	14票	脇坂公園	5票	学校グラウンド	2票	安土山公園	1票
新庁舎	14票	東公園	5票	新宮神社	2票		
ハーバルビレッジ	13票	海	5票	五色山公園	2票		

【小学校】平成 28 年度公園アンケート調査

調査対象者数 : 556 人 (4 つの小学校及び小中学校)

回答者数 : 470 人

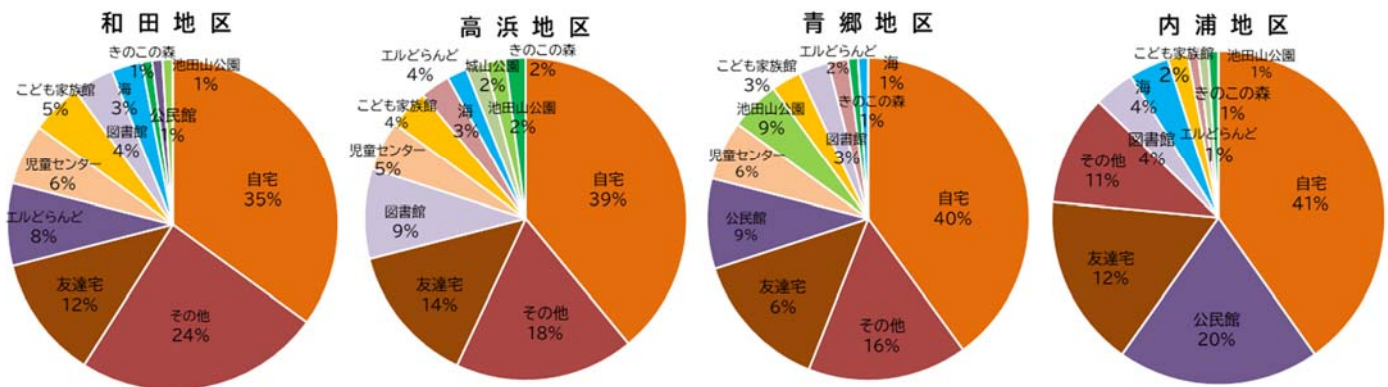
回答率 : 84.5%

問1 平日の過ごし方

和田地区	1位 自宅(家族宅) 41%	2位 友達宅 16%	3位 習い事 10%	4位 児童センター 9%	5位 学童保育 6%	6位 学校グラウンド 5%
高浜地区	1位 自宅(家族宅) 40%	2位 友達宅 20%	3位 習い事 14%	4位 学童保育 6%	5位 児童センター 6%	6位 図書館 5%
青郷地区	1位 自宅(家族宅) 41%	2位 友達宅 20%	3位 習い事 10%	4位 公民館 8%	5位 池田山公園 7%	6位 学童保育 6%
内浦地区	1位 自宅(家族宅) 54%	2位 公民館 8%	3位 友達宅 8%	4位 海 7%	5位 習い事 7%	6位 その他6%

問2 休日の過ごし方

和田地区	1位 自宅(家族宅) 35%	2位 その他 24%	3位 友達宅 12%	4位 エルどらんど 8%	5位 児童センター 6%	6位 こども家族館 5%
高浜地区	1位 自宅(家族宅) 39%	2位 その他 18%	3位 友達宅 14%	4位 図書館 9%	5位 児童センター 5%	6位 こども家族館 4%
青郷地区	1位 自宅(家族宅) 40%	2位 その他 16%	3位 友達宅 14%	4位 公民館 9%	5位 児童センター 6%	6位 池田山公園 5%
内浦地区	1位 自宅(家族宅) 41%	2位 公民館 20%	3位 友達宅 17%	4位 その他 11%	5位 図書館 4%	6位 海 4%



問3 公園の現状について (複数回答あり)

満足である	28票
公園はあるが遊具が少ない	191票
空き地が欲しい	118票
運動遊具が欲しい	247票
公園が少ない	221票
公園は必要ない	4票

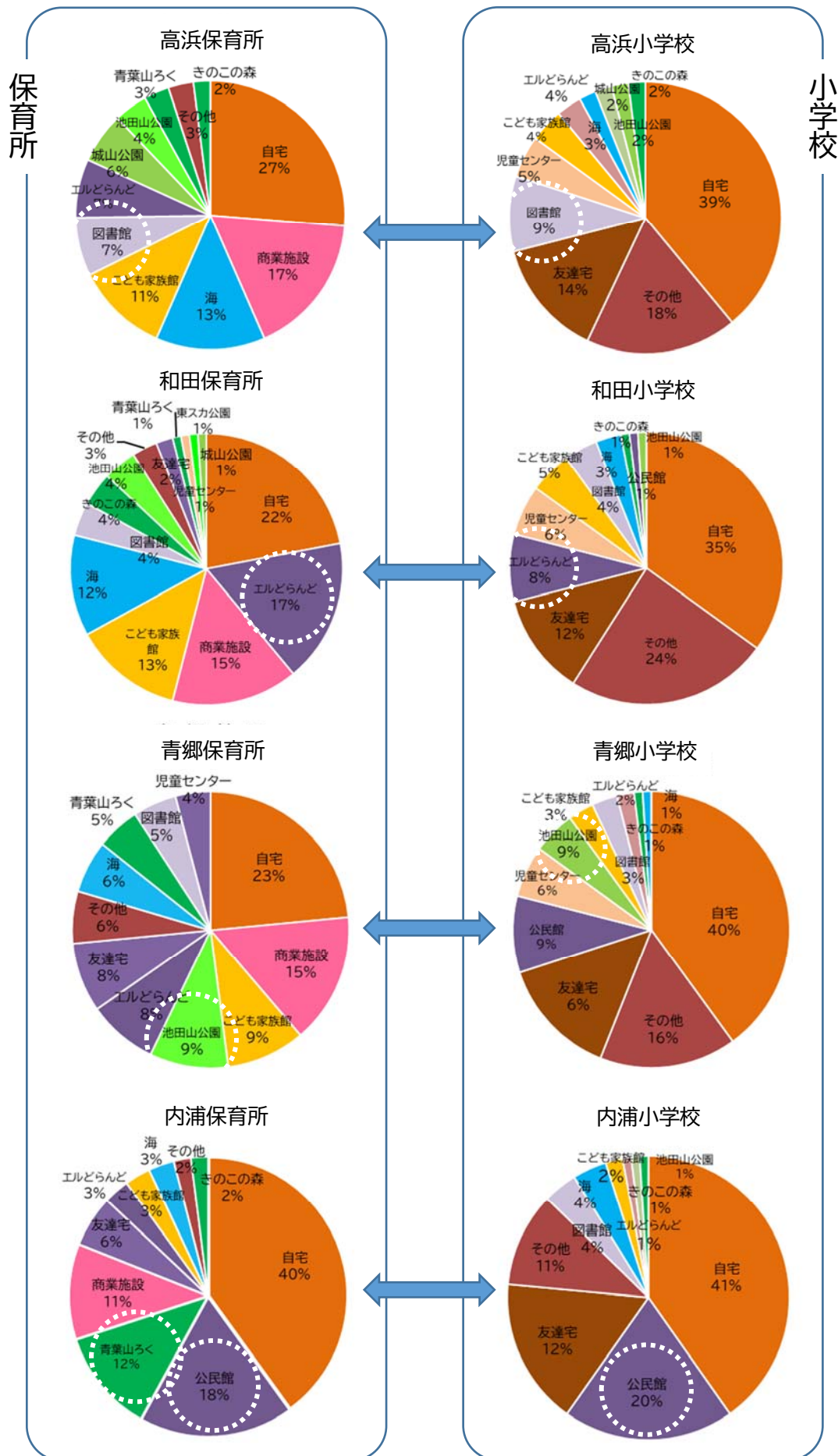
問4 希望する公園の規模について (どちらかを選択)

① 家から近い子どもだけで行ける小型公園	327票
家から遠く大人と行く大型公園	110票
② 遊具が充実している公園	254票
スポーツができる広場	194票

問5 遊具を設置してほしい公共施設

城山公園	10票	エルどらんど	7票	海	3票	文化会館庭園	1票
公民館	30票	図書館	51票	野球場	2票	道の駅	1票
保健福祉センター	33票	中央体育館	15票	役場跡地	1票	三松駅	1票
児童センター	31票	脇坂公園	2票	オフサイトセンター	1票	湯谷緑地公園	1票
新庁舎	27票	ハーバル・レッジ	14票	郷土資料館	1票		

【保育所】と【小学校】 休日の過ごし方で見える地区比較



【保育所】アンケートについて

- ・「公園を良く利用する」と回答した人は、8%。「たまに利用する」37%、「ほとんど利用しない」が55%となった。休日の過ごし方では、全地区「自宅」が1位。2位以降は地区により異なるが、高浜・和田・青郷地区は、商業施設、エルどらんど、こども家族館、海、図書館、池田山公園と共通して回答している。公園の内容については、遊具への要望が高い傾向である。

【小学校】アンケートについて

- ・平日の過ごし方は、自宅、友達宅、習い事、公民館、学童などが多い。休日については、1位は共通し「自宅」、2位以下は、内浦地区以外は共通し、「その他」「友達宅」となっている。3位以下は地域性が現れており、和田地区はエルどらんど、高浜地区は図書館・城山公園、青郷地区は公民館・池田山公園と回答している人が多い。内浦地区は2位に公民館と公民館利用割合が高いことがわかる。
- ・公園の内容では、保育所と同じように遊具への要望が高い傾向がある。

【地区ごとの比較】について

《高浜地区》保育所は屋外（海、城山公園等）、小学生は屋内

保育所期では、「海」「城山公園」「池田山公園」「グリーンスポーツセンター（青葉山麓ろく公園）」「きのこの森」と屋外施設利用ニーズが高いことがわかる。小学生になると屋外施設利用が減少し、「自宅」「友達宅」「図書館」「児童センター」と屋内施設利用割合が増加する。

《和田地区》保育所は屋外（エルどらんど、海等）、小学生は屋内

保育所期では、「エルどらんど」が2番目に利用している特性があり、高浜・地区同様に「海」「きのこの森」「池田山公園」「グリーンスポーツセンター（青葉山麓公園）」「東スカ公園」「城山公園」と屋外施設ニーズがある。小学生になると「自宅」等の屋内利用割合が増加する。

《青郷地区》保育所は屋外（池田山公園）、小学生は屋内

保育所期は、「池田山公園」が高い割合という特性があり、屋外施設利用ニーズがある。小学生になると他地区同様に屋内施設利用割合が増加している。

《内浦地区》保育所も小学生も屋内

比較的保育所期から屋内施設利用割合が高い。また、「公民館」「グリーンスポーツセンター（青葉山麓公園）」の利用が特性としてみられる。

2-4 緑の評価と課題

- ・都市公園 0.21 m²/人（福井県 16.8 m²、全国平均 10.4 m²）と少ない
- ・「緑が少ないと感じない理由」は、生活エリアを囲むような緑の存在
- ・一方、「遊び場の不足」「遊具の希望」の子育て世代が多い

高浜町は、都市公園の面積は一人当たり 0.21 m²と少なく、都市計画上の公園は不足している。一方、「それほど緑が少ないと感じていない」現状があり、これは、これまで整理してきたように、海、浜、川、田畑、森林、山と視覚的にも面積的にも、生活エリアを囲むように緑が存在している結果だといえる。ただ、昭和 30 年代の国道 27 号がバイパスとして完成し、市街地が南側へ広がってくる中で、かつて豊かにあった緑の量は減少し、また田畑を耕作する町民も高齢化するなど、自然や農地をどのように保全していけるのかが課題となってきた。

町民アンケートからは、子どもの遊び場が不足していると感じる意見もあり、子育て環境のひとつとしての公園利用のニーズが高いことが伺える。また、子どもの遊び場環境も屋外から屋内を主体とした形に変わってきているため、公民館等の屋内空間と公園等の屋外空間を集約またはネットワーク化しつつ、利用・管理・運営をどのようにマネジメントしていくことができるかが課題となってきた。

（1）環境保全（生物多様性の保全、海辺の環境保全）

高浜町は、8つの海水浴場や青葉山麓の希少植物・有用植物、若狭湾国定公園など豊かで多様な自然を有している。そのため、生物多様性の保全や海辺の環境保全を中心に評価し、課題を整理する。

（生物多様性の保全）

項 目	評 価	課 題
植生 希少動植物 有用植物	・青葉山麓にはオオキンレイカをはじめとした希少植物が分布している ・青葉山麓中心に 500 種以上の有用植物が自生している ・海岸沿いにはハマナスの群落（南限）が点在している ・町内に点在する寺社仏閣敷地内には、大きな樹木が多く存在する	・自然公園等における自然保護 ・里山環境の保全 ・海岸環境の保全
土地利用	・海岸沿いはすべて若狭湾国定公園に指定されている ・高浜町全体の 74%を占める森林の内、約半分以上が天然林として残っている ・高浜、和田地区は、国道 27 号線を境に南	・コンパクトな市街地再編 ・適正な土地利用による自然環境の保全 ・農地の保全 ・魚付保安林の保全

	側に農振地域が広がっている ・経済活動の拡大により里山環境は変化しており、希少な野生生物の生育環境が悪化している	・青葉山麓の里山環境の保全 ・グリーンベルトの形成
--	---	------------------------------

(海辺の環境保全)

項 目	評 価	課 題
海水浴場の保全 水源の保全	・8つの海水浴場は、海浜生物の貴重な生育環境であると同時に、高浜町の環境指標となりつつあり、ビーチの国際環境認証ブルーフラッグが取得された ・海の環境保全のためにも、里山の環境整備が大切である	・漂着ゴミ等海岸環境の改善 ・国際環境認証ブルーフラッグの推進 ・水源の森の保全
地球温暖化防止	・公共施設、民間施設等での緑化状況にバラつきがある	・公共施設、民間施設の緑化 ・緑化率の向上

(2) 防災（災害時の避難地・避難路、防災のための緑の確保）

町内の避難地・避難路の観点や防災のための緑の確保の観点を中心に評価し、課題を整理する。

(災害時の対応)

項 目	評 価	課 題
災害応急対策	・体育館や小中学校等は、避難所に指定されていることから、災害時の防災的な観点的ニーズが高まっている ・中心市街地には、海際に木造密集市街地が集積し、防災力の低いエリアがある	・公共施設等に隣接する緑地や公園の防災機能強化 ・木造密集市街地での防災道路や防災広場等の確保

(防災のための緑の確保)

項 目	評 価	課 題
公共施設緑化 民有地緑化	・公共施設の緑化率にはバラつきが目立っている	・公共施設の緑化、緑化率の向上
防風林	・海岸線沿いには防風林が分布している	・防風林等の保全
河川・農地	・浸水被害対策のための調整池等が整備されている	・調整池の保全 ・農地、森林の保全

（３）景観（景観形成、快適な生活環境の創出）

青葉山や海岸景観などの特徴的な景観や住民アンケートの結果、花と緑のまちづくり活動の状況を踏まえ評価し、課題を整理する。

（景観形成）

項 目	評 価	課 題
景観エリア 自然・歴史・まちなみ・路地・観光眺望	・青葉山の視点場が町内各所にみられる ・旧街道である丹後街道沿いに伝統的民家が集積している ・かつて日本一の海水浴場の町として、多くの民宿が残っている ・路地などの特徴的な資源がある	・青葉山の視点場保全 ・丹後街道の町並み ・民宿群の保全活用 ・路地空間の保全活用
住民アンケートでのニーズ	・遊具についてのニーズが高い ・公園が少ないという意識が強い	・住民利用中心の公園整備 ・子育て期の屋外利用に対応した公園整備

（快適な生活環境の創出）

項 目	評 価	課 題
季節感 花いっぱい運動	・天然自然林が多く残っている ・ガーデニングを楽しむ住民の増加	・天然林の保全 ・花と緑のまちづくりの推進

（４）健康・レクリエーション（健康・スポーツ、レクリエーション）

都市公園等の分布や住民意向アンケートの結果を踏まえ評価し、課題を整理する。

（健康・スポーツ）

項 目	評 価	課 題
健康増進・スポーツのための公園・広場	・健康のまちづくりが進み健康体操や健高カフェなどが実施されている ・海沿いのウォーキング道がある ・周辺部に大型の公園等を配置 ・青葉ふれあいドームや中央体育館が整備され、環境が充実してきている	・健康増進やスポーツを通じた環境づくりの推進 ・整備された施設の活用 ・居住地から歩ける範囲にスポーツレクリエーション施設が不足

（レクリエーション）

項 目	評 価	課 題
体験・観光	・海岸沿いや青葉山麓には、レクリエーションや観光目的の施設が整備されている ・老朽化した施設が残っている	・老朽化した施設のリニューアルおよび適正な集約と維持管理 ・質の高い生活ニーズへの対応

（５）子育て（子育て世帯利用・遊び場）

保育所・小中学校、図書館、子育て施設等の配置を踏まえ評価し、課題を整理する。

項 目	評 価	課 題
自然とのふれあい	・海や山に囲まれ、自然と接する機会が比較的多い ・一方、自然と子育て施設のネットワークが形成されていない	・子育て環境と自然環境のネットワーク化や公園との連携
遊び、遊具	・老朽化した遊具が増えている ・安全な遊び場、快適な遊び場へのニーズが高まっている	・遊び場、遊具（複合遊具等）の整備
交流	・広場を活用した交流イベントが増え始めている	・子育て世帯を巻き込んだ交流イベントの増加

（６）都市公園を中心とした公園・広場づくりについての課題

高浜町には、街区公園（都市公園）として東スカ公園がある。街区公園は、都市公園の中で最も小さな公園に分類されている。平成５年、人口構造が変化する中、身近な公園（児童公園）に求められる機能が変わり、高齢者等も含めた街区内の居住者コミュニティ形成の場という意味合いを明確にするため、児童公園から街区公園へと名称変更となった。これに伴い児童公園の施設設置基準であったブランコ・滑り台・砂場の設置などが廃止された。

制度変更より２５年以上が経過し、高齢化に伴う健康増進・コミュニティ形成の場づくりが積極的に取り組まれる中、公園を基盤とした子どもの遊び場について高浜町内で見直す時期にきている。

安全と冒険性、管理と自由度のバランス

行政職員は、公園で起こった出来事責任の多くを負う立場に置かれている。また、火の使用は危ない、子どもが騒いでうるさいといった苦情の対応にも応じる必要がある。その一方、公園は画一的で、禁止事項が多く、子ども達が夢中で遊べる場になっていないという批判も受けている。こうした相反する意見の間に挟まれ、苦慮しているのが現状でもある。

都市化の進展などに伴い、野外遊びの本来の魅力である自然性や冒険性、あるいは穴を掘ったりできるような自由度を確保することが昔よりも求められている。このことに対して、安全性や施設の適切な維持管理とのバランスをはかりながら、いかに公園を運営していくかが課題となっている。

子どものための遊び場の確保（多様なニーズの調整）

子どものための遊び場は、必ずしも大人が望むような空間と一致せず、時に対立する場合がある。例えば、子どもは廃材や泥のある空間で熱中して遊ぶが、そのような空間を大人は危険、不衛生と感じる場合が多い。面積の大きな公園であれば、エリアを区切って整備し、管理運営することにより、それぞれのニーズを満たすことができるが、街区公園のような小さな公園においては困難となる。そのため、多様なニーズを調整し、子どもが夢中になって遊べる場をまちの中にしっかりと確保することが課題である。

住民と行政の協働による公園の整備・管理運営のあり方

本来、身近な公園は、地域住民の共有の空間として、地域が主体となり整備や管理運営をしていくことが望ましい。しかし、公園は行政が整備し、管理運営するものという意識が定着しており、住民は何かあるとすぐに行政に意見することになる。その結果、公園は禁止事項が目立つ魅力に乏しい印象を与える場所となってしまう。こうした状況を打破するためには、住民と行政が協働で公園の整備や管理運営に取り組み、住民の中に自らの公園であるという意識を育むことができるかが課題である。

子どもの遊びや多様な体験を支える人材・運営ソフトの育成

公園において子どもの自由で豊かな遊びや多様な体験を支える人材や運営ソフトは、ほとんどないのが現状である。体験プログラムを提供するといった運営に関わる人材や予算が身近な小さな公園においては不足している。

子ども会や区長会など地域住民の組織には、子どもを支える役割が期待されているが、コミュニティ活動全般が低調になっている中で、公園をフィールドにして活発に活動する組織は少なく、活動のノウハウも蓄積されていない状況である。教育部門や児童福祉部門など行政の横断的な連携強化も含め、多様な人材や運営ソフトを育成し、子どもの遊びを見守る仕組みをつくっていくことが課題である。